

令和5年度 第1回金沢市屋外広告物審議会 議事録

■ 日 時 令和6年2月27日(火) 13時30分～14時45分

■ 場 所 金沢市役所第一本庁舎4階 405会議室

■ 出席者 委員12名中12名出席

氏名	所属・職名	備考
浅田 久太	金沢市観光協会 理事	
荒川 昭広	金沢学院大学芸術学部 教授	
荒木 恭子	石川県建築設計監理協会 専務理事	
加藤 幸枝	カラープランニングコーポレーションクリマ代表取締役	
北村 賢哉	金沢美術工芸大学デザイン科 教授	会長
坂矢 昶央美	石川県屋外広告業協同組合 理事長	
沢田 史子	北陸学院大学社会学部社会学科 教授	
中川 理恵	金沢市商店街連盟 おかみさん連絡会幹事	
中出 健作	弁護士	
廣川 佳正	石川県屋外広告士会 会長	
宮下 智裕	金沢工業大学建築学部 教授	副会長
村井 万利子	公募委員	
(オブザーバー)		
橋本 清安	石川県警察本部 生活安全部 生活安全捜査課長	欠席
竹内 憲一	石川県 土木部都市計画課長(兼)景観形成推進室次長	欠席

- 次 第
1. 開会
 2. 会長選任
 3. 報告案件 今年度の取組状況
 - 1) 許可・審査等状況
 - 2) 違反指導・是正状況
 - 3) 周知啓発活動
 4. 意見聴取 次年度の取組予定
 5. 個別審議案件（非公開）
 6. 閉会

■ 会議内容

1 開会

2 会長選任

会長に北村委員、副会長に宮下委員を選任

3 報告案件 今年度の取組状況

(事務局 資料に沿って今年度取組状況1)～3)について報告)

【会 長】 この裏にある、審査の準備、経過の調査、それから指導、啓発、多岐に渡る活動をされている。ここで何か質問はあるか。

(質問なし)

4 意見聴取 次年度の取組予定

(事務局 資料に沿って次年度の取組予定について説明)

【会 長】 まずは3)屋外広告業制度改正について、今後予算案・条例案を議会に諮る段階とのことだが、石川県屋外広告業協同組合としては歓迎される改正ということによろしいか。

【A 委員】 他県ではこの制度改正を行っているところも結構あるため、提案させてもらった。

【会 長】 まち歩きサイン、仮囲いデザインについて、時間をとり、ご意見、アドバイスなど、ご発言をお願いしたい。

【B 委員】 仮囲いデザインについて、雪吊りデザインがあったかと思うが、引き続き使っていくのか。新しいデザインを作っていくというものか。雪吊りデザインは年度限定だったのか。

【事務局】 雪吊りデザインは、建設現場のイメージアップを目的とし、金沢美大に委託して、完成したもの。年度限定ではなく今後も活用される。

新年度の事業は、民間事業者の現場において、事業者自身が仮囲いにデザインを施される場合、どんな仕組みが良いかを考えている。

【会 長】 他にいかがか。

【C 委員】 民間の企業が実施するときに指導するようなものか。

【事務局】 建設現場は、当然市がするものだけでなく、民間事業者、ゼネコンが関わっており、大規模なほど仮囲いがあったり、期間が長かったりする。そうしたところに、市がお金を出して毎回良くしていくのではなく、民間事業者が自主的に、宣伝色が薄くまちの魅力が高まるものを出していただくような仕掛けができればと考えている。全国では既にこのような取組が多くあると聞いており、先進事例を研究しながら、金沢らしいものを検討していきたい。都心軸限定で考えているが、このエリアは伝統環境保存区域ではなく、近

代的都市景観創出区域であり、活力が望まれる。また、仮囲いはあくまでも一時的であり長く掲出されるものではないというところで、できることがないかを考えている。

【C 委員】 観光客も多く歩くルートであり、伝統的なデザインで活力あるものもできるのではないかと。活力だけでなく伝統的なことも意識した方が良いのではないかと思う。

【事務局】 ご意見の通りで、金沢駅から武蔵ヶ辻を通過して片町、犀川大橋まで行くと、都心軸でもゾーンごとに特徴や求められるものが違うと思う。ゾーンごとに考え方も整理する必要があると思っている。

武蔵ヶ辻や片町などは商店街の方が求められる賑わいがあると思うし、金沢駅周辺は、観光客の方にとり金沢への第一歩であるため、別の表現方法があると思われる。明年度、いろいろなご意見をいただけたらありがたい。

【会 長】 仮囲いでいえば、東京で再開発があちこちで行われており、ビルの周りが仮囲いで覆われているが、工夫されている印象がある。D 委員いかがか。

【D 委員】 東京では、「未来の東京 2024」という文化戦略の施策の中で、東京のプレゼンス向上を目的に、今年度、来年度にかけていろいろな場所でアートをまちなかに展開していくために、仮囲いを活用する取組がなされている。

今回の金沢の話と非常に近いと思われるのは、福岡の再開発の取組かと思う。福岡では運営事務局を市が後援し、作品の選定や、民間事業者で掲出の承諾のコーディネートまでを、地元のアート NPO が関わっている事例がある。福岡も芸術大学があるため、アーティストの作品発表や、情報発信、アーティストの活動支援と、まちづくりをつなげていこうという取組が行われており、非常に成果を上げている状況かと思う。その背景には、経産省がクールジャパン政策で打ち出しているアートスタートアップ支援という取組があり、アートやクリエイティブを活用してまちを元気にするという取組が全国で今展開されている。そのため、どうやって民間事業者を巻き込んでいくかという話があったが、例えば芸術関連の補助金や助成金、制度活用の促進といったものを経産省がパンフレットを作って推進しているので、機運としてはそういう背景があることを紹介させていただいた。

【会 長】 パーマネントではないからこそ、何かできる、いろんな人を巻き込んでやれるということは、面白い良いことができそうで、デザイン向上という視点をベースに、何かにぎわいにつながれば良いと思う。

さて、まち歩きサインについてもご意見いただければと思う。まち歩きサインの役割は時代とともに変わっており、我々が持つツールもデバイスも旅の仕方も変わってきていると思うが、それも踏まえ、今後のまち歩きサインのあり方や事業について、ご意見いただければと思う。

【E 委員】 最近木が多く活用されているが、耐久性に欠けるため、以前のサインでも文字が取れたり、詳細な図面がなかったりした。現在では処理を施すことで半永久的にもつサインを作れるようになってきているため、そのような作り方をさせていただきたいと思う。例えば、圧縮すると 50 年ぐらいもつため、そういったものを作れたら良いと思う。

【B 委員】 木の文化都市金沢との関連としても、金沢は木をどう文化として使うのかがポイントになる。まちにおける一種のアイコン、皆が注目する場所にもなると思うので、それをどう表現するかは、少しチャレンジしていただくと良い。

木の考え方は 2 通りある気がしており、木をどう長く持たせるかと、木の経年変化自体を楽しめるようなデザインやサイン計画にすることである。金沢の木の文化がいろいろな形でチャレンジできて、観光客や市民に親しまれ、見ていただけるサインになると良い。

【会 長】 伊勢神宮の式年遷宮ではないが、金沢ならではの良さ、自然な持続可能性といったところで、見る視点もあってもいいかも知れない。他の素材に合わせていくのではなく木らしさを追求するのもあるかも知れない。

【C 委員】 夜間照明について、具体的にアイデアや案はあるか。

【事務局】 夜間照明は、全国的にそこまで進んでおらず、必ずしも必要とも思っていないが、しいのき迎賓館で石川県が現に内照式の地図を設置しており、周辺を照らす明かりにもなっているが、地図を見ようとすると眩しいおそれもある。

例えば、街灯とサインが一体になった計画であれば、照明がなくても地図が見えるかも知れないが、現在設置されているサインには街灯がないものが多いと感じる。夜の回遊を促す施策の一方で、サインは照らさないと見えないのが現況である。

そこで、まち歩きサインに照明を付けることは検討に値するのではないか。照明があった方が良い場所や、技術的に眩しくない照明方法や、人が近づいたときに点灯するなど技術的なことも研究したいと考えており、ご存じであれば伺いたい。

【C 委員】 境港にゲゲゲの鬼太郎ロードがあり、非常に素敵である。照明から落ちる影がゲゲゲの鬼太郎のキャラクターになっていて、歩くのが楽しい。サインとは少し異なるが、魅力あるまち歩きという点では、そういったものを組み合わせ、例えば市役所前広場などにあったら楽しいまち歩きができると常々思っており、検討していただけたらと思う。

【F 委員】 スマホなど活用する時代でサインのあり方をどうすべきかとの話もあったと認識しているが、他の観光地でもよくある AR（仮想現実）を使ってマップや経路などより詳細なものがわかる形にし、サインはあくまでもシンプルで景観を損なわないものとしてうまく併用、共存するような、両方の機能を付加していくサインがあってもいいのではないかと感じる。

【会 長】 意見を参考に次年度事業を進めていただければと思う。

5 個別審議案件（非公開）

6 閉会

以上